





安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や他の人々への危害や損害を未然に 防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる人がいつでも見られるところに保管してください。

◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.



◎お取り扱いについてのお願い		2
◎各部のなまえ		3
◎標準付属品と収納場所	4	~5
●標準付属品		4
●収納場所(1)…天板内部収納部		5
●収納場所(2)…補助テーブル収納部…		5
◎操作方法	6~	17
●電源のつなぎ方		6
★スタート / ストップボタンを使用す	る場合	6
★フットコントローラーを使用する場	合	6
●操作ボタン	7	~8
●速さの調節		9
★スピードコントロールつまみ		9
★フットコントローラー		9
●操作パネル	10~	11
●押さえ上げ		.12
●押さえ圧調節ダイヤル		.12
●送り歯ドロップつまみ		.13
●糸調子ダイヤル		.14
●送り調節ねじ(模様の形の調節)		.15
●押さえの外し方、付け方		.16
●押さえホルダーの外し方、付け方		.16
●針の取りかえ方		.17
●布に適した糸や針を選ぶ目安		.17
 ◎ぬう前の準備 	18~	24
● ト糸の準備	18~	21
★ホヒンの取り出し		.18
★糸とまのセット		.18
★ 補助 糸立 C 棒の 使い方		.19
★ ト 米 杏 さ	19~	20
★ホビンのセット		.21
 ●上糸の準備	22~	23
★上糸かけ		.22
★ 未通し		.23
● 下示を す 板の 上に ち に ち に ち は ち 場 つ	05	.24
	20~	08
● 候様の迭0万		.20 .25
★ 芋 兄 似		.20 .25
▼伏你の迭し刀	 26 -	.20 קר
●はい日の恒のかって	∠u~	26
▼はい口の畑のリアクリ		20
▲はいロワのつこのがん力 ●声娘(声娘)//「荷娘///		
	28~.	00 00
▲ [□//ʃkʊɑv ၊ (中业 ⊥巨/	20.0	23

目 次

★自動返しぬい		.30
★自動止めぬい		.31
★直線ぬい(左針位置)		.31
★三重ぬい		.32
★伸縮ぬい(ニットステッチ)		.32
★針板ガイドの使い方		.33
●ファスナー付け	.34~	36
●ピンタック		.36
●ギャザー		.37
●かがりぬい	.38~	39
★トリコットぬいたち目かがり		.38
★かがりぬい 1		.38
★かがりぬい 2		.38
★ニットステッチ 1		.39
★ニットステッチ 2		.39
●まつりぬい	.40~	41
●シェルタック		.42
●ゴムひも付け		.42
●ボタンホール	.43~	52
★ボタンホールの種類と用途		.43
★スクエアボタンホール	.44~	46
★ボタンホールの幅とあらさのかえ方		.47
★片ラウンド、両ラウンドボタンホー	ル	.48
★キーホールボタンホール		.48
★ニットボタンホール		.49
★芯入りボタンホール		.50
★たまぶちボタンホール	.51~	52
●ボタン付け		.53
●つくろいぬい(ダーニング)	.54~	55
●かんぬき止め		.56
●アイレット		.57
●パッチワーク・キルト	.58~	59
★パッチワーク(1)…ピーシング		.58
★パッチワーク(2)…飾りぬい		.59
★キルティング(1)		
…スティップリングステッチ		.59
★キルティング(2)…とじぬい		.59
●フリーキルティング	. 60 ~	61
★ P:刺しゅう押さえの取り付け方…		.60
★ P-2:フリーキルト押さえの取り付	け方…	.60
★ P:刺しゅう押さえのぬい		.61
★ P-2:フリーキルト押さえのぬい		.61
●アップリケ		.62
●フリンジ		.63

目 次

●ドロンワーク	63~	- 64
●スモッキング	••••••	64
●ファゴティング	••••••	65
●スカラップ	••••••	65
●フレンチノットステッチ		65
●クロスステッチ		66
●密着模様ぬい		66
● 2 本針ぬい	67 ~	- 68
◎記憶ぬい	69 ~	- 75
●組み合わせ記憶		69
●止めぬい模様の使い方		70
●糸切り記憶の方法		71
●反転キーの使い方		72
●もよう頭出しキーの使い方		73
●つなぎ模様の使い方	74 ~	- 75
●スペース模様の使い方		75
◎文字ぬい	76 ~	- 79
●文字の種類		76
●文字ぬいの例	77 ~	- 79
◎編集機能	80 ~	- 83
●記憶内容の確認		80
●記憶内容の修正(模様の削除と挿入)		81
●ぬい目の幅とあらさの調節方法	82 ~	- 83
★統一マニュアル方式		82
★個別マニュアル方式		83
◎ミシンの設定	84 ~	- 87
◎ミシンのお手入れ	88 ~	- 89
●かまと送り歯、糸切り部の掃除		88
●糸案内カバーの掃除		89
◎こんなときには	90 ~	- 94
●ブザー音の種類		90
●メッセージ画面が表示された場合	90 ~	-91
●ミシンの調子が悪いときの直し方	92 ~	- 94

ご使用の前に
 「」
 () ぬう布を汚さないようにするため、針板付近の

- ① ぬう布を汚さないようにするため、軒板内近の 油やほこりなどの汚れを、乾いたやわらかい布で 十分にふき取ってください。 試しぬいをして、布が汚れないことを確認してか ら使用してください。
- シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



◇修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障が生じたりしたときは、「◎ こんなときには」(90 ~ 94 ページ)によって点検・ 調整を行ってください。



1. 天びん 2. 押さえ圧調節ダイヤル 3. 早見板 4. 天板 5. 天板内部収納部 6. 糸切り(下糸巻き用) 7. 糸巻き軸 8. 糸切りホルダー 9. 補助糸立て棒取り付け穴 10. 糸立て棒 11. 糸こま押さえ(大) 12. 糸調子ダイヤル 13.糸切り 14. 面板 15. スピードコントロールつまみ 16. 画面 17. 操作パネル 18. 糸切りボタン 19. 上下停針ボタン 20. 止めぬいボタン 21.送り調節ねじ 22. 返しぬいボタン 23. スタート / ストップボタン 24. 補助テーブル 25. 押さえホルダー 26. 押さえホルダー止めねじ 27. 糸通しレバー 28. ボタンホール切りかえレバー 29. アーム糸案内 30. 針止めねじ 31. 針棒糸かけ 32. 針(14番) 33. 押さえ 34. 針板 35. 角板開放ボタン 36. 角板 37. カッター(下糸切り用) 38.送り歯 39.手さげハンドル 40. はずみ車 41. 通風口 42.送り歯ドロップつまみ 43. プラグ受け 44. フットコントローラープラグ受け 45. 電源スイッチ 46. 押さえ上げ

- ※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更す る場合がありますので、ご了承ください。
- ※ ミシンを持つときは、片手で手さげハンドルを持ち、 必ず、もう片方の手でミシンをささえてください。

◎標準付属品と収納場所

●標準付属品



●収納場所(1)…天板内部収納部



●収納場所(2)…補助テーブル収納部









天板を上に開けると、押さえやボビンの小物が収納できます。

【補助テーブルの開け方】

補助テーブル左側のくぼみに指をかけ、手前に引いて開 けます。

補助テーブルのカバーを開けると、押さえやボビン、その他の小物が収納できます。

【補助テーブルの外し方・取り付け方】 補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。 取り付けるときは、フリーアームにそわせ、突き当たる まで押し込んで取り付けます。

フリーアームの使い方 補助テーブルを外すとフリーアームになります。 そでぐちやすそなどのぬい、および袋物のくち端の始 末に利用できます。



●電源のつなぎ方

<u>∧</u> 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源100 V でご使用ください。
 ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 感電・火災の原因になります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
 ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり火災の原因になります。

★スタート / ストップボタンを使用する場合



- 電源スイッチを「OFF」(切)にします。
- ② 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ④ 電源スイッチを「ON」(入) にします。
- ※ 電源スイッチを入れると、ミシンの準備のための初期 設定が数秒間行われます。 初期設定中は針などが動きますので、ミシンに触れないでください。

- ※ フットコントローラーは、モデルによりオプションに なります。
- 電源スイッチを「OFF」(切)にします。
- フットコントローラープラグをフットコントローラー プラグ受けに差し込みます。
- ③電源コードのプラグをプラグ受けに差し込みます。
- ④ 電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ⑤ 電源スイッチを「ON」(入) にします。
- ※ フットコントローラーのコードの取り出し方と収納方 法は9ページをごらんください。
- ※ フットコントローラーを接続すると、スタート/スト ップボタンは使用できません。



電源スイッチ ON 1 OFF 電源スイッチ ON (5) OFF (2) フットコントローラープラグ 0 フットコント ローラープラグ受け プラグ 3 電源コード コンセント プラグ受け 電源プラグ フットコントローラー

★フットコントローラーを使用する場合

6





【スタート / ストップボタン】

ボタンを押すと、ミシンはゆっくり動きはじめてからスピードコントロールつまみでセットした速さになります。 (ゆっくりスタート機能)

もう一度押すと停止します。(通常は針が下の位置で停止します。)

- ※ ボタンを押してスタートさせたときおよび停止させたときに、指をはなさないで押し続けているあいだは、ミシンは低速で動きます。
- ※ ミシンを停止したとき、通常は針が下の位置で停止しますが、針を上の位置に停止することもできます。 「◎ミシンの設定/【ミシン停止時の針位置設定】」(85 ページ)をごらんください。
- ※ 動きはじめの速度(ゆっくりスタート機能)は、かえることができます。 「◎ミシンの設定/【ゆっくりスタートの速度設定】」(86 ページ)をごらんください。
- ※ フットコントローラーを接続しているときは、スタート / ストップボタンは使用できません。

【返しぬいボタン】

■ 直線模様 ⇔ ⇔ ⇔ (モード 1) ⇔ ⇔ (モード 2)、およびジグザグ模様 ^M ^A ^A ^A ^A ^A ^A (モード 1) の場合

《ミシン停止中》(フットコントローラーを接続していないときのみ) ボタンを押しているあいだは低速で返しぬいを行い、指をはなすとミシンは停止します。

《ミシン運転中》

ボタンを押しているあいだは返しぬいを行い、指をはなすと前進ぬいにもどります。

■ その他の模様の場合

ぬい途中にボタンが押されると、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。 停止してから押した場合、運転再開後、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。 ※ 模様 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ (モード 1) は、特殊な使い方になります。(30、31、54、56ページ参照) 22 03 31 32 【止めぬいボタン】

■ 直線模様 ⇔ ⇔ ⇔ (モード 1) ⇔ ⇔ (モード 2)、およびジグザグ模様 01 04 05 55 56 10 11 12 (モード 1) の場合

ぬい途中にボタンが押されると、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。 停止してから押した場合、運転再開後、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

■ その他の模様の場合

ぬい途中にボタンが押されると、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

停止してから押した場合、運転再開後、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬ いを行って自動的にミシンが停止します。

※ ぬう前にボタンを押しておくと、模様を1つだけぬったあと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミ シンが停止します。

【上下停針ボタン】

ミシンが停止しているときにボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に、下にあるときは上に移動させる ことができます。

※ ミシンを停止したときの針位置の設定方法は、「◎ミシンの設定/【ミシン停止時の針位置設定】」(85 ペ ージ)をごらんください。

【糸切りボタン】

ぬい終わったあとボタンを押すと、上糸と下糸を自動的に切ります。

(針が布にささった状態でも、糸切りボタンを押すと針は上の位置に移動します。)

糸切り後は下糸を針板の上に引きあげないで、そのままの状態でぬうことができます。

※ 糸切り中は、画面に糸切り表示が点滅しています。

糸切り表示(点滅)



糸切りの注意事項

- 30 番および 30 番より太い糸や特殊な糸を切る場合、2 本針ぬいで糸を切る場合は、ミシンの面板に付いている糸切りを使用してください。
 - …「◎ぬい方/●直線(直線状模様)ぬい/★直線ぬい(中針位置)/〔面板の糸切りの使い方〕欄」 (29ページ)参照
- ・ 糸こまの糸残りが少ないものは使用しないでください。糸がらみの原因になります。
- ・ 糸切り部の掃除をときどき行ってください。糸切り部に糸くずがたまると故障の原因になります。
 …「◎ミシンのお手入れ/●かまと送り歯、糸切り部の掃除」(88 ページ)参照
- ・ 糸が切れず糸がからんでしまった場合は、針板を外し、からんでいる糸を取り除いてください。
 …「◎ミシンのお手入れ/●かまと送り歯、糸切り部の掃除」(88ページ)参照



★スピードコントロールつまみ



★フットコントローラー





ぬう速さは、スピードコントロールつまみやフットコン トローラーで調節します。

スピードコントロールつまみは、スタート / ストップボ タン使用時のぬう速さを調節できます。 つまみの位置が右側になるほど速くなります。

- ※ フットコントローラー使用時は、フットコントロー ラーをいっぱいに踏み込んだときの最高速度を調節で きます。
- ※ 最高速度は、模様のぬい目のあらさおよび模様の種類 によって変化します。

フットコントローラーの踏みかげんで、ぬう速さが調節 できます。

・深く踏む→速くなる。

・浅く踏む→遅くなる。

※ スピードコントロールつまみは、通常、いちばん右側の位置(最高速)にして、踏みかげんで調節してください。
細かいものをぬうときなどは低速側にしておくと、フットコントローラーをいっぱいに踏み込んでもスピードが出ないので使いやすくなります。

⚠ 注意

- フットコントローラーの上に物を置かないように してください。けがや故障の原因になります。
- フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸 くずやほこりがないことを確認してください。 動作不良を起こし、けがや故障の原因になります。

【コードの取り出し方と収納方法】

- フットコントローラーを使用するときは、底のカバー を外してコードを取り出します。
- ② フットコントローラーを使用しないときは、底のカバ ーを外してコードを巻き付けて収納します。
- ③ カバーは、先に2カ所のつめを押し込んでから取り 付けます。



① モードキー(25、84ページ参照)

- モード1~モード5までの5種類にグループ分けされた模様を選ぶときに使います。
- ミシンの設定では、設定項目を選ぶときに使います。

2 編集キー(80、85ページ参照)

- 記憶した模様の確認、削除、追加などの編集をするときのカーソル移動に使います。
- ・ ミシンの設定では、設定内容を変更するときに使います。
- ③ テンキー(25ページ参照)

模様番号(2桁)を選ぶときに使います。

- ④とりけしキー(25、81、86ページ参照)
 - ・ 選んだ模様番号(十の位)を取り消すときに使います。
 - 記憶した模様を取り消すときに使います。
 - ※ ブザーが「ピッ」と鳴るまで取り消しキーを長押しすると、記憶したすべての模様を一度で取り消すこと ができます。
 - ミシンの設定では、変更した設定項目を一括して初期の状態(購入時の設定状態)にもどすときに使います。

⑤模様ダイレクト選択キー(25ページ参照)

模様をワンタッチで選ぶときに使います。(4個のキーに表示された4種類の模様が選べます。)

6 記憶キー(69ページ参照)

模様を組み合わせるときなど、選んだ模様を記憶させるときに使います。

※ 模様は合計 50 個まで記憶できます。

⑦ もようの頭出しキー(73ページ参照)

ぬいを途中で止めた場合、模様の始めからぬうときに使います。

※ 組み合わせ模様の記憶ぬいの場合は、記憶しているどの模様からでもぬうことができます。



- ⑧ 反転キー(72ページ参照)
 選んだ模様を左右反転した形でぬうときに使います。
- ③ 2本針キー(68ページ参照)
 2本針ぬいのときに使います。

(1) ぬい目の幅調節キー(26、47、79、82、83ページ参照)

- ・ 直線ぬいの針位置や模様のぬい目の幅をかえるときに使います。
- ・ 文字ぬいの場合は、文字サイズを縮小するときに使います。

② 糸切り記憶キー(71ページ参照)
 模様のぬい終わりに自動的に糸切りを行うときに使います。
 (ぬい終わりにほつれ止めの止めぬいも行われます。)

押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。 普通にあげた位置よりさらに高くあげることもでき、厚 い布を入れるときなどに利用できます。

① さげた位置…ぬうとき

- ② 普通にあげた位置…布のセットや取り出し、上糸かけ 押さえの交換のときなど
- ③ さらにあげた位置…厚い布を入れるときや針板を交換 するときなど
- ※ 押さえ上げをさげないでミシンをスタートさせようと すると安全装置がはたらいてミシンがスタートできな いようになっています。

このとき画面の押さえ表示が点滅します。





●押さえ圧調節ダイヤル





布地の厚さや特殊なぬい方によって、押さえ圧調節ダイ ヤルをまわして押さえ圧を調節します。 小さな数字ほど押さえ圧は弱くなります。

通常は「5」に合わせます。

薄物地をぬうとき、および伸縮性の布地をぬうときやア ップリケなどぬいしろ部分が重なりあうものをカーブし てぬうときなど、ぬいずれしやすい場合は弱くします。 厚物地は強くします。

●送り歯ドロップつまみ



送り歯ドロップつまみで送り歯を常時さげた状態にし、 布送り機能をなしにすることができます。 ボタン付けなどを行うときに使用します。

※送り歯をさげた場合、ぬいが終わったら送り歯ドロッ プつまみを「送り歯をあげる位置」にもどし、はずみ 車を手で手前にまわして送り歯があがることを確認し てください。







通常は、糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせ ると上糸と下糸がバランスよくぬえるように自動セット されます。

糸や布の種類、その他のぬい条件などによって「オート」 の位置で糸調子のバランスがとれない場合や、特殊なぬ い方をする場合は糸調子ダイヤルで調節します。

※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたな くなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりしま す。

【バランスのとれた糸調子】

直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわ ります。

ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくら いになります。



【上糸が弱すぎる場合】





【上糸が強すぎる場合の調節】

上糸が強すぎると下糸が布の表に引き出されます。 糸調子ダイヤルをまわし、「3」を目安に数値を小さくし ます。

【上糸が弱すぎる場合の調節】

上糸が弱すぎると上糸が布の裏に引き出されます。 上糸が布の表でたるんだり、輪になる場合もあります。 糸調子ダイヤルをまわし、「3」を目安に数値を大きくし ます。

布地の裏がタオル地のようになる場合

図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のように なるのは、上糸の調子が弱いか、上糸のかけ方が間違っています。 上記で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してください。 「◎ぬう前の準備/●上糸の準備/★上糸かけ」(22ページ)参照

10.0

●送り調節ねじ(模様の形の調節)



(標準位置)





《文字の場合: [8] の例》





布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては模様の形が くずれて正しい形でぬえない場合があります。 実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、模様の形が くずれている場合は送り調節ねじで調節します。

キャップを外すと調節ができます。

キャップは、左側のすきまにドライバーを入れて外します。 (キャップに傷がつかないように注意してください。) 取り付けるときは、キャップの欠けている部分を左側に して、取り付け部の突起に合わせてはめ込みます。

- ※ 図のように指示線を垂直にした位置が、標準的な条件 での模様を正しくぬえる目安の位置です。
- ※送り調節ねじの位置をかえた場合は、ぬい終わったあ と標準位置(指示線が垂直位置)にもどしてください。

【模様の形の整え方】

図1のように模様がつまっているときは、送り調節ねじ を「+」方向にまわします。

図2のように模様が伸びているときは、送り調節ねじを 「一」方向にまわします。

【文字の形の整え方】

図1のように文字がつまっているときは、送り調節ねじ を「+」方向にまわします。

図2のように文字が伸びているときは、送り調節ねじを 「- 一方向にまわします。



図1のように左側があらいときは、送り調節ねじを「+」 方向にまわします。

図2のように右側があらいときは、送り調節ねじを「--方向にまわします。

⚠ 注意

- ・押さえの取り外し、取り付けは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。
- ・ 押さえは模様に合ったものをご使用ください。押さえが合っていないと針が押さえにあたり、けがの原因 になります。



【押さえの外し方】

- はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げ をあげます。
- ※ 押さえ上げのあげ方は、「●押さえ上げ」(12ページ) をごらんください。
- ② 押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押して、
 押さえを外します。
- ※ レバーを上から押さないでください。故障の原因にな ります。

【押さえの付け方】

押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、 押さえ上げをゆっくりさげます。

※ 押さえは、模様に合ったものを使用してください。 押さえには記号が付いています。

●押さえホルダーの外し方、付け方

押さえ

⚠ 注意

押さえホルダーの取り外し・取り付けは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。



【押さえホルダーの外し方】

- はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げ をあげます。
- ② ドライバーで押さえホルダー止めねじを左にまわして ゆるめ、押さえホルダーを外します。

【押さえホルダーの付け方】

- ※ 押さえホルダーは、押さえが付いた状態で取り付けて ください。押さえが付いていないと正常な取り付けが できません。
- ① 押さえ上げをあげます。
- ② 押さえ棒に押さえホルダーを取り付け、押さえホルダ ー止めねじを軽くしめ、押さえホルダーを仮止めして おきます。
- ③ 押さえ上げをさげ、押さえホルダー止めねじを一度少しゆるめてから、押さえが針板に押し付けられた状態で押さえホルダー止めねじをドライバーでしっかりしめます。

⚠ 注意

針の交換は、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。



※ 針は必ず、家庭用ミシン針(HA × 1)を使用してください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

 はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げ をさげます。

- ② 針止めねじを手前に1~2回まわしてゆるめ、針を 外します。
- ③ 取り付けは、針の平らな面を向こう側に向けてピンに あたるまで差し込み、針止めねじをドライバーでしっ かりしめます。
- ※ 正しく針が付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物(針板など)に置いたとき、す きまが針先まで均等に見えるのが良い針です。 針先が曲がったり、つぶれているものは使わないように してください。

布の	種類	糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番~ 11 番 または ブルー針
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	綿糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番〜 90 番	11 番〜 14 番 または ブルー針、レッド針、パープル針
		綿糸 50 番	14 番またはレッド針、パープル針
厚い布	デニム ツィード	綿糸 40 番~ 50 番 ポリエステル 40 番~ 50 番	14 番〜 16 番 または レッド針、パープル針
	コート地 	ポリエステル 30 番 綿糸 30 番	16番

※ ブルー針〔11番〕・レッド針〔14番〕・パープル針〔14番〕は、標準付属品の針ケースに入っています。

※ 一般的に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。 この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをしてください。

※ 通常は、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ ブルー針(柄の部分が青色の針)およびパープル針(柄の部分が紫色の針)は、目とびの防止効果があります。

◎ぬう前の準備

●下糸の準備

★ボビンの取り出し



★糸こまのセット

《普通の糸こまの場合》



《小さい糸こまの場合》



《特殊糸こまの場合》





- ※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。
- 押さえ上げをあげ、角板開放ボタンを右へずらして角 板を外します。

② ボビンを取り出します。



糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前に 出るように糸こまを向けて糸立て棒に入れ、糸こま押さ えを押しつけて糸こまを押さえます。

- ※ 普通の糸こまには糸こま押さえ(大)を、小さい糸こ まには糸こま押さえ(小)を使います。
- ※ 伸縮性の糸を使用する場合には、市販の糸こまネット 使用をおすすめします。 糸外れや糸のよじれ防止効果があります。

糸こまネットは、糸こまの大きさに合わせて切って使 用してください



図のような長さの糸こまを使用するときには、糸こま押 さえ(特殊)を使用することで、糸こまを固定すること ができます。

糸こま押さえ(特殊)

糸こま押さえ(特殊)は、図のように、糸こまを糸立て 棒にセットしたあと、糸こまの穴に入れてください。

※ 糸こまと糸こま押さえ(特殊)のあいだにはすきまが ないようにしてください。



★下糸巻き



みぞ

ボビン

糸巻き軸

付属の補助糸立て棒は、ミシンに付いている糸立て棒に 糸こまをセットした状態のまま別の糸こまで糸巻きをす るときや、2本針ぬいのときなどに使います。

補助糸立て棒を使うときは、図のように補助糸立て棒取 り付け穴に差し込んでください。

糸こまは、糸の端が糸こまの下から手前に出るようにセ ットし、糸こま押さえを押しつけて糸こまを押さえます。

※ 糸巻きのときは、スピードコントロールつまみを最高 速(いちばん右側の位置)にセットしてください。

① ボビンのみぞと糸巻き軸のばねを合わせて、 ボビンを糸巻き軸に差し込みます。

- ② 糸を両手で持ち、糸案内カバーのすきまに「パチン」 と音がするまで押し込みます。
- ③ 糸案内(A)と糸案内(B)に順に糸をかけ、糸案内 カバーのうしろにまわして、必ず糸を強めに引いて、 右に引き出します。
- ※ 糸を補助ばねの下に確実に通すために、糸こま側の糸 を左手で持ち、引き出した糸を右手で強めに引いてく ださい。 補助ばねの下を通していないと、糸巻き不良の原因に なります。









- ④ 右に引き出した糸を左手で押さえ、右手で糸の端をボ ビンに右まわり(時計方向)に4~5回巻きます。
- ⑤ ボビンに4~5回巻いた糸を、ボビンの下にある糸 切りホルダーのみぞに入れ、みぞにそって引いて糸を 切ります。
- ※ みぞは3カ所あり、中にカッターが内蔵されています。

⑥ ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。※ 画面に糸巻き表示が点灯します。



- ※ 糸を巻く前に、糸巻き軸などボビン以外の箇所に糸が 巻き付いていないことを確認してください。
- ※補助ばねとボビンのあいだの糸のたるみを少なくして ください。
- ⑦ ミシンをスタートさせます。
 巻き終わると自動的にボビンの回転が止まるので、ボビンの回転が止まったらミシンを停止し、ボビンを左にもどします。
- ※ ボビン(糸巻き軸)は、必ずミシンを停止してからも どしてください。
- ※ ミシンを停止しないで放置しておくと、安全のために ミシンがスタートしてから約 90 秒で自動停止します。
- ⑧ 糸巻き軸からボビンを外して、糸切りで糸を切ります。



(8)

(7)

(6)





⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイ ッチを切ってください。けがの原因になります。

- 糸の端がボビンのうしろ側から矢印方向に出るように 向けて(糸が左巻き)、ボビンを内がまに入れます。
- ※ ボビンから引き出される糸の状態の図が角板に表示されています。
- ② ボビンが回転しないように、右手でボビンを軽く押さ えます。 左手で糸の端を持ち、内がまの手前のみぞにかけ、さらに手前のつのの下をくぐらせます。
- ※ 糸を各部に確実にかけるために、下記手順④が終了するまで、右手でボビンを押さえた状態で行ってください。
- ③ つのの下をくぐらせた糸を矢印 1 の方向に引きあげ て矢印 1 の右側のみぞに入れます。
- ※ 手順②で、内がまの手前のみぞに糸がかかっていない と、内がまの板ばねのあいだに糸が入らず、ボビンか ら直接矢印1の右側のみぞに通ってしまいます。 (左図、【B】参照) その場合は手順②からかけ直してください。 正しくかけられていないと、ぬい不良の原因になりま す。
- ④ そのままみぞにそって矢印2の方向に糸を通し、下 側のカッターにかけてから右に水平に引いて糸を切り ます。

- ⑤ 角板を左側から合わせて取り付けます。
- ※ 通常は、下糸はこの状態のままでぬい始めることができます。

ぬい始めに下糸を針板の上に引き出す必要があるとき は、「●下糸を針板の上に引き出す場合」(24ページ) をごらんください。









上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってく ださい。けがの原因になります。

- ※ 上糸かけは、必ず押さえ上げをあげて行ってください。 押さえ上げがあがっていないと糸が正しくかけられず、 ぬい不良の原因になります。
- ※ 押さえ上げのあげ方は、「●押さえ上げ」(12ページ) をごらんください。
- ※ 上糸かけは、糸を各部に確実にかけるために、常に右 手で糸こま側の糸を押さえながら、左手で強めに引い てかけてください。
- ※ 糸こまのセット方法は、「●下糸の準備/★糸こまの セット」(18ページ)をごらんください。
- 糸を両手で持ち、糸案内カバーのすきまに「パチン」 と音がするまで押し込みます。
- ② 右手で糸こま側の糸を押さえ、左手で糸案内(A)と 糸案内(B)に順に糸をかけ、みぞにそって手前に 「パチン」と音がするまで強めに引き出します。
- ③ 糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。
- ④ 天びんの右からうしろへまわして手前に引き、ばねを 通過させて糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。
 ※ 糸を糸穴にしっかり入れてください。
- ⑤ アーム糸案内に右からかけます。
- ⑥ 針棒糸かけに右からかけます。
- ⑦ 糸通しを使って針に糸を通します。
 糸通しの使い方は、「★糸通し」(23 ページ)をごらんください。



▲ 注意

糸通しを使うときは、必ず電源スイッチを切ってく ださい。けがの原因になります。

- ※ 針は家庭用ミシン針(HA × 1)の11番~16番、 糸は50番~90番が使用できます。
- ※2本針のときは、糸通しは使えません。
- 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押し、針と天びんを上にあげます。

② 電源スイッチを切ります。

- ③糸を糸ガイドの上を通し、左に引きあげます。
- ※ 糸が糸通しのみぞを通っていることを確認します。
- ④ 引きあげた糸を、ミシンの面板に付いている糸切りに
 手前から向こう側にかけ、切ります。
 糸が糸押さえで保持されます。
- ⑤ <u>糸通しレバーの上に糸が無い事を確認して</u>、糸通しレ バーを止まるまでさげます。

- ⑥ 糸通しレバーを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。
- ⑦ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に引いて 針穴から糸の端を引き出します。
- ※ 糸の輪ができず、フックに引っかかってしまう場合、 そのまま糸をうしろに引き出します。

●下糸を針板の上に引き出す場合



上下停針ボタン

Ж

ギャザーやスモッキングなどをぬう場合のように、ぬい 始めの下糸を長くする必要があるときだけ、下記手順① ~④の方法で下糸を針板の上に引き出してください。

- ●下糸の準備/★ボビンのセット」手順①~③(21 ページ)と同じ方法で下糸を矢印1の方向に引きあ げてみぞに入れたら、そのまま10 cm ほど向こう側 に引き出しておき、角板を取り付けます。
 (糸は、下側にあるカッターで切らないでください。)
- ② 針に上糸を通し、押さえ上げをあげた状態で、上糸の端を指で押さえておきます。

 ③ 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して針をさ げ、もう一度押して針をあげます。
 上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。



2

3

上糸



④ 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約10 cm ほど引き出して、そろえておきます。

ト糸

下糸



$ \begin{array}{ c } \hline \\ \hline $
$\begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 & 0 & 0 & 4 & 0 & 5 & 0 & 6 & 0 & 7 & 0 & 0 & 9 & 10 & 11 & 12 & 13 & 14 & 15 & 16 & 17 & 18 \\ \hline 0 & 2 & 2 & 2 & 2 & 2 & 2 & 2 & 2 & 2 &$
$ \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$
19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 38 89 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 76 86 67 71 72 73 74 75 77 78 79 80 81 82 88 86 87 88 T - F 3 T
モード3 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 A B C D E F G H I J K L 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 11 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 20 21 20 21 20 21 20 21 20 21 20 21 20 21 20 21 20 2
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 A B C D E F G H I J K L あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなに アイウエオカキクケコサシスセソタチッテトナ 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 44 55 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 44 55 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22
10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 67 08 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 10 10 20 30 40 55 66 70 80 90 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 20 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
MNOPQRSTUVWXYZabcdefgn ぬねのはひふへはまみむめもやゆよらりるれろわ メネノハヒノヘホマミムメモヤユヨラリルレロ
2 3 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 23 44 23 44 23 44 23 44 23 44 23 44 23 44 24 34 44 23 44 24 34 44 23 44 24 34 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44
i j k l m n o p q r s t u v w x y z . & ? ! をんぁぃぅぇぉっゃゅょ、。ーがぎぐげござじず ヲンァィゥェォッャュョ、。ーガギグゲゴザジ
45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 45 66 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66
-,':<>()=_+/%~//@♪☆♡=目目 ぜそだぢづでどばびふべぼばびふべぼう ■目目 ゼゾダヂヅデドバビブベポパピプペポヴ ■目
67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 97 98 99 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 97 98 99 79 80 91 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 97 98 99

ミシンの早見板は、このミシンでぬうことができるすべての模様が表示されています。 模様を選ぶ場合は、早見板からその模様がどのモードにあるかを見つけ、モードキーでモードを選び、早見板に

表示されている2桁の模様番号をテンキーで設定します。



●ぬい目の幅とあらさのかえ方

★ぬい目の幅のかえ方











ぬい目の幅の値



ぬい目の幅調節キーでぬい目の幅(直線状模様の場合は 針位置)をかえることができます。

「+」を押すと表示されている数値が大きくなり、ぬい目 の幅が広くなります。

直線状模様の場合は、針が右へ移動します。

「-」を押すと表示されている数値が小さくなり、ぬい目 の幅がせまくなります。 直線状模様の場合は、針が左へ移動します。

※ 画面の数値は、ぬい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。 画面の数値は直線状模様の場合は、左針位置からの距

離の目安をミリメートルで表示しています。 左針位置が「0.0」、中針位置が「3.5」、右針位置が 「7.0」になります。

※下記の直線状模様がぬい目の幅調節キーで針位置をか えることができます。 直線状模様は、模様のイラストに針板の穴の表示があ

します。

〔針位置が変更できる直線状模様〕



ぬい目の幅の基準位置

早見板に表示されている模様 ^M などのように、ぬい目のイラストの右に書かれている「L」「M」「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示し、「L」はた針位置を基準(固定)にした模様で、ぬい目の幅をかえたときに、左針位置を基準(固定)に右に幅が変化します。

同様に、「M」は中針位置を基準(固定)にした模様で、 中央を基準(固定)に左右に幅が変化し、「R」は右 針位置を基準(固定)にした模様で、右針位置を基 準(固定)に左に幅が変化します。



★ぬい目のあらさのかえ方

ぬい目のあらさの値



〔模様 ^M(モード 1)の例〕

ぬい目のあらさの値



ぬい目のあらさ調節キーでぬい目のあらさをかえること ができます。

「+」を押すと表示されている数値が大きくなり、ぬい目 のあらさがあらくなります。

「-」を押すと表示されている数値が小さくなり、ぬい目 のあらさが細かくなります。

※ ぬい目のあらさは、布や糸によりかわりますので、画 面の数値は目安としてミリメートルで表示しています。 また、返しぬいのぬい目のあらさは、表示数値より小 さくなります。

●直線(直線状模様)ぬい

★直線ぬい(中針位置)







【ぬい始め】

- 上糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布 を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手で手前 にまわして最初のぬい位置に針をさします。
- ※ 通常、内がまにボビンをセットしたあとや、糸切りボ タンを使用して糸を切ったあとのぬい始めは、下糸は 針板の上に引き出す必要はありませんが、上糸は必ず 向こう側に引いて、押さえで押さえてください。

押さえ上げをさげて、ぬい始めます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押します。

ぬい始めの糸の引き出し方

通常は、ぬい始めの上糸は押さえの向こう側に引き出 して、押さえで押さえます。 ただし、F:サテン押さえや R:ボタンホール押さえ など押さえの裏側の前後方向(縦方向)がへこんでい て押さえ面がない押さえは、ぬい始めの糸は横方向に 引き出して、押さえで押さえてください。





【厚手の布端のぬい始め】

- 最初のぬい位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを 押し込みます。
- 黒ボタンを押したまま押さえ上げをさげます。
- ③ 黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。
- ※ 黒ボタンを押した状態で押さえ上げをさげると押さえ が水平に固定され、段部をスムーズにぬい始めること ができます。

ぬい始めると黒ボタンがもどり、押さえはもとの自由 に動く状態になります。



糸切りボタン 糸切りボタン しましん 返しぬい 返しぬいボタン

【ぬい方向の変更】

① 布の方向をかえる位置まできたらミシンを止めます。

- ② 布に針がささっていない場合は、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。
- ※ 通常はミシンを停止すると、針が布にささった状態に なっています。
- ③ 針を布にさしたままぬい方向をかえ、押さえ上げをさ げてぬい始めます。
- ※ ぬい位置がずれなくてきれいにぬうことができます。

【ぬい終わり】

- ゆい終わりの位置で返しぬいボタンを押して数針返し ぬいを行い、ミシンを止めます。
- ② 糸切りボタンを押して糸を切ります。
- ※ 針が布にささった状態でも、糸切りボタンを押すと針 は上の位置に移動します。
- ③ 押さえ上げをあげて布を向こう側に引き出します。
- ※ ぬい始めとぬい終わりのほつれ止めを自動的に行う自動返しぬい模様 (モード1)、と、自動止めぬい 模様 (モード1)があります。
 「★自動返しぬい」(30ページ)、「★自動止めぬい」 (31ページ)をごらんください。

<u>面板の糸切りの使い方</u>

30 番および 30 番より太い糸や特殊な糸を切る場合は、ミシンの面板に付いている糸切りを使用してください。

針と押さえ上げをあげ、布を向こう側に引き出してから手前に返すようにして糸を切ります。



★自動返しぬい







ぬい始めとぬい終わりにしっかりしたほつれ止め(返し ぬい)を自動的に行うときに使います。

【ぬい始め】

ミシンをスタートさせると、ぬい始めに自動的に数針返しぬいを行います。

【ぬい終わり】(スタート/ストップボタン使用時)

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し(または運転 したまま)、返しぬいボタンを一度押します。 その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが停 止します。

【ぬい終わり】(フットコントローラー使用時)

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し(または運転 したまま)、返しぬいボタンを一度押します。 ミシンを停止してからボタンを押した場合は、再度フッ トコントローラーを踏むと、その位置から自動的に数針 返しぬいを行ってミシンが停止します。 運転したままボタンを押した場合は、その位置から自動 的に数針返しぬいを行ってミシンが停止します。

★自動止めぬい







止めぬい

ぬい始めとぬい終わりに目立たないほつれ止め(止めぬ い)を自動的に行うときに使います。

【ぬい始め】

ミシンをスタートさせると、ぬい始めに自動的に数針止 めぬいを行います。

【ぬい終わり】(スタート/ストップボタン使用時)

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し(または運転 したまま)、返しぬいボタンを一度押します。 その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが停止 します。

【ぬい終わり】(フットコントローラー使用時)

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し(または運転 したまま)、返しぬいボタンを一度押します。 ミシンを停止してからボタンを押した場合は、再度フッ トコントローラーを踏むと、その位置で自動的に数針止 めぬいを行ってミシンが停止します。 運転したままボタンを押した場合は、その位置で自動的 に数針止めぬいを行ってミシンが停止します。

★直線ぬい(左針位置)



端ぬいや、薄物ぬいに使います。



丈夫なぬい目で、厚い布や袋物、ズボンなどしっかりと ぬい合わせたい場所に使います。

※ その他、模様^(中)(モード1)は飾りぬいなど、また
 (中)
 (中)
 (マ)(モード1)は飾りぬいやキルティングなど
 に使います。

★伸縮ぬい (ニットステッチ)



布が伸びても糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目で、二 ット地のぬい合わせなどに使います。

- * 模様 (モード1)の場合、ぬい目の幅調節キーでの調節は、他の直線状模様と異なり、ぬい位置ではなく、ぬい目の幅の調節になります。
- ※ 模様 ¹/₀₉ (モード 1) のぬい目のイラストの右に書か れている「L」は、ぬい目の幅をかえたときの基準 位置です。 ぬい目の幅の基準位置は、「●ぬい目の幅とあらさの かえ方/★ぬい目の幅のかえ方/〔ぬい目の幅の基準 位置〕欄」(26ページ)をごらんください。

★針板ガイドの使い方



針板には、布のぬい位置を決めるための便利なガイドが いろいろ表示されています。

【ガイドライン】

布端を針板のガイドラインに合わせてぬうと、布端から 正確な位置にぬうことができます。

ガイドラインの数字は、ぬい位置(針板の穴の中央)か らガイドラインまでの距離を「インチ」と「ミリメートル」 で表示しています。

※ ガイドラインは角板およびミシンのフリーアームにも 表示されています。





【角度目盛り】

角度目盛りは、パッチワークのピース作りに使うと便利 です。

パッチワーク布(ピース)の角度と同じ角度目盛りに布端を合わせると、しるしなしでぬいしろ 0.65 cm(1/4インチ)のぬい始めの位置を決めることができます。

※ 使い方は、「●パッチワーク・キルト/★パッチワー ク(1)…ピーシング」(58ページ)をごらんください。

【コーナーリングガイド】

布端から 1.6 cm (5/8 インチ)のところで直角にぬい 方向をかえるときに利用します。

- ・・・ぬい方向をかえたあと布端から 1.6 cm(5/8 イ ンチ)の位置でぬうことができます。
- 布端がコーナーリングガイドのところにきたらミシン を停止します。
- ② 針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、布を直角に回転させます。
 布端が針板右側のガイドライン 1.6 cm (5/8 インチ)の位置に合います。
- ③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートさせます。

●ファスナー付け

〔むしの左側をぬうとき〕

布裏

(1)

布表





あき止まり

ノァスナー寸法

あき寸法

〔むしの右側をぬうとき〕

【ファスナー押さえの付け方】

ファスナーのむしの左側をぬうときは、押さえの右側の ピンを押さえホルダーにセットします。 むしの右側をぬうときは、押さえの左側のピンを押さえ

ホルダーにセットします。

【例】左脇あきのぬい方

- 台布

-むし

スライダー

 ファスナーのあき寸法を確かめます。
 あき寸法はファスナー寸法に1 cm プラスした寸法 です。





1 cm

- ② 布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
- ※ 地ぬいの部分は、A:基本押さえを使ってぬってくだ さい。
- ③ あき部分のしつけをします。
- ※ しつけは、ほどきやすくするために、ぬい目のあらさ 「5.0」(約 0.5 cm)、糸調子「1」くらいでぬい(し つけ)ます。

しつけが終わったら、ぬい目のあらさおよび糸調子を もとの値にもどしてください。(糸調子は「オート」)


 ④ ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを 0.3 cm 出し てアイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあ てます。

⑤ ファスナー押さえの右側のピンを押さえホルダーに セットし、むしのきわを押さえの端(右側段部)に あて、あき止まりからファスナーの左側をぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは数針返しぬいをします。

⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえに あたらないように注意してください。 針があたると、けがの原因となります。

- ⑥ ファスナーの端から約5 cm ほど手前でミシンを停止し、針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。
- ※ ぬい終わりのほつれ止めは数針返しぬいをします。
- ファスナーを閉じ、スライダーを上にたおし、上の布 をファスナーの上にかぶせます。
 かぶせた布と台布をしつけで止めます。
- ※ しつけは A:基本押さえを使用します。 しつけは、ほどきやすくするために、ぬい目のあらさ 「5.0」(約 0.5 cm)、糸調子「1」くらいでぬい(し つけ)ます。 しつけが終わったら、ぬい目のあらさおよび糸調子を もとの値にもどしてください。(糸調子は「オート」)



 ③ ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーに セットします。
 上の布のあき止まりを 0.7 ~ 1 cm ほど返しぬいして から、むしのきわを押さえの端(左側段部)にあて、 ファスナーの右側をぬいます。



ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえに あたらないように注意してください。 針があたると、けがの原因となります。

- ⑨ ファスナーの上側を5 cm ほど残したところでミシン を停止し、針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、
 手順③でぬったしつけ糸をほどき、スライダーを押さ えの向こう側にずらします。
- 10 押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。
 ぬい終わったら手順⑦でぬったしつけ糸をほどきます。



●ピンタック

(10)



※ 押さえの画面表示は、基本押さえ A になっていますが、ピンタックのときは、G: まつりぬい押さえを使います。



① 布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

ぬい終わったら片返しにして、アイロンで整えます。



出来上がり線



37

●かがりぬい

★トリコットぬいたち目かがり





ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の 反り防止などに使います。

ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい 目近くで切り落とします。

★かがりぬい 1



★ニットステッチ1

ミシンのセット (モード1) ① 模様..... 14 2 5.0 *2*.0 ③ 糸調子ダイヤルオート

伸縮性布地(ニット地など)のかがりぬいに使います。

ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい 目近くで切り落とします。







- ①ふちを折り曲げ、布の折り目にそってぬいます。
- ② 布の裏側の余分なところを、ぬい目近くで切り落とします。





【左針位置の調節方法】

く 模様 18 と 19 の場合、ぬい目の幅調節キーは、模様を 左右に移動させて、左側の針位置(折り山側の針位置) を調節できます。(模様の幅をかえることはできません。) 布の厚さなどによって、針が折り山にかかりすぎたり、 かかりが少なかったりする場合に調節してください。

画面のぬい目の幅の数値は、押さえのガイドから左針位 置(折り山側の針位置)までの距離を目安としてミリメ ートルで表示しています。

・「+」を押すと表示されている数値が大きくなり、 左針位置が左へ移動します。(模様が左へ移動します。)

・「-」を押すと表示されている数値が小さくなり、 左針位置が右へ移動します。(模様が右へ移動します。)







① 布をバイヤスに2つ折りにします。

② 右側の針位置が布の折り山のきわ(布の外側)になる ように布をガイドしてぬいます。



●ゴムひも付け





- 布の裏側にまち針でゴムひもを等間かくに数カ所とめます。(ゴムひもは、伸ばした状態で等間かくにとめます。)
- ② ゴムひもを布と同じ長さに両手で伸ばしながら、ゴム ひもの上をぬいます。



★ボタンホールの種類と用途



ボタンホールは、R:ボタンホール押さえにボタンをセットするだけで自動的に最適なボタンホールをぬうことが できます。(ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみ込むと自動的 に決まります。)

- ※ ボタンの直径が 1.0 ~ 2.5 cm までのボタンホールができます。
- ※ボタンホールは、模様が完成するとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。(ミシン停止時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の位置で停止します。)

ボタンホールの注意事項

- ・ 伸縮性のある布は、伸びないように裏に芯地を貼ってください。
- ・ 使用する布のはぎれなどで試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。
- ・ ボタンホールをぬう場所に、必ずマーク(しるし)を付けてください。

★スクエアボタンホール

上糸



(〔ぬい始める前の確認〕45ページ参照)





[1] 左側のラインタック
 下ぬい
 するい
 <l



⑤ 上糸を横に軽く引いて持ち、ミシンをスタートさせます。(ぬい始めから数針ぬったあとは、糸から手をはなしてください。)

ボタンホールをぬい終わったところでほつれ止めの止 めぬいを行って、自動的にミシンが停止します。

【ぬい順序】

- [1] 下ぬいをし、左側のラインタックをぬいます。
- [2] 下ぬいをし、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。
- [3] かんぬきと止めぬいを行って自動的にミシンが停止 します。

ボタンホールの重ねぬい

ボタンホールをぬい終わったところで押さえ上げをあげずにもう一度ミシンをスタートさせると、ボリュー ム感のあるボタンホールの「重ねぬい」ができます。

「重ねぬい」は、必ず押さえ上げをあげずにそのままの状態でミシンを再スタートさせてください。

※ ボタンホールの重ねぬいで送りがつまるときには、ぬい目のあらさを大きくしてぬってください。





⑥ ぬい終わったら、ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに押しあげてもどします。



 ⑦ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパー で左右のラインタックの糸を切らないようにボタン穴 を切り開きます。



ボタンホール全体の幅の値





「+」を押すと表示されている数値が大きくなり、ボタン ホール全体の幅が広くなります。

「-」を押すと表示されている数値が小さくなり、ボタン ホール全体の幅がせまくなります。



ぬい目のあらさの値



ぬい目のあらさ調節キーでぬい目のあらさを「0.2」~ 「0.8」まで 0.1 ずつかえることができます。

「+」を押すと表示されている数値が大きくなり、ぬい目 のあらさがあらくなります。

「-」を押すと表示されている数値が小さくなり、ぬい目 のあらさが細かくなります。

★片ラウンド、両ラウンドボタンホール



★キーホールボタンホール



★ニットボタンホール



ジ)をごらんください。

49

★芯入りボタンホール





- ※ ぬい方は、「★スクエアボタンホール」と同じです。 44~46ページをごらんください。
- ※ 使用する芯糸の太さに合わせてボタンホールの幅を調 節してください。
- 芯糸の中央部を押さえのうしろ側にあるつのにかけ、 押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前 側の2カ所の切り込みに左右の糸をそれぞれはさみ ます。
- ※ 芯糸は、たるみのないように強く張ってください。
- ② スクエアボタンホールの手順①~⑦(44~46ページ)と同じようにぬいます。



3

③ ぬい終わったら芯糸を引いてたるみをなくし、余分な 芯糸を切ります。

左右どちらの芯糸も引けない場合は、芯糸の両側を切 ります。



★たまぶちボタンホール





●ボタン付け



※ 押さえの画面表示は、基本押さえ A になっていますが、ボタン付けのときは、F: サテン押さえを使います。



ください。ボタンに針があたると針が折れ、けがの 原因になります。





【準備】

- ① 送り歯ドロップつまみで送り歯をさげます。
- ② スピードコントロールつまみの位置をゆっくり側にして、ぬい速度を遅くします。
- ③ ボタンの左右の穴の間かくをはかり、ぬい目の幅調節 キーでぬい目の幅の値を穴の間かくと同じ値に設定し ます。

(最大 7.0 mm まで調節できます。)

【ぬい方】

- ※ ぬい始めに自動的に止めぬいを入れるため、下記手順
 ①からの操作を行うときは、必ず模様 [▲] を選んだ直
 後から行ってください。模様 [▲] を一度でもぬったあ
 とに行うと、ぬい始めに止めぬいが入りません。
- はずみ車を手で手前にまわして,ボタンの左の穴に針がおりるようにします。
- ② ボタンの左右の穴が真横になるようにして、押さえ上 げをさげます。
- ③ はずみ車を手で手前に数回まわすと、左側の穴を数回 ぬったあと針が右側に移動するので、針がボタンにあ たらないでボタンの右の穴に入ることを確認します。 針がボタンにあたる場合は、ぬい目の幅調節キーで調 節してください。中央針位置を基準(固定)で左右に 幅が変化します。
- ※ はずみ車を手前にまわすと、最初に止めぬいを行うた めに左側の穴だけを数回ぬいます。
- ④ ミシンをスタートさせ、10 針くらいぬったらミシン を停止します。
- ⑤ 針をあげ、押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と 下糸を10~20 cm 残して切ります。(糸切りボタ ンで切らないでください。)
- ⑥ ぬい始めの上糸と下糸は、止めぬいが入っているので、 ボタンのきわではさみで切ります。(はさみは付属に は含まれていません。) ぬい終わりの上糸と下糸は、下糸を引いて上糸を布の 裏側に引き出し、上糸と下糸を結んでから切ります。
- ※ ぬい終わったら送り歯ドロップつまみを送り歯をあげる位置にもどし、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認します。(13ページ参照)



ぬい終わると、ミシンはぬった長さを記憶していますの で、2個目からは返しぬいボタンを押さなくても同じ長 さのものを繰り返しぬうことができます。

※ 異なる長さのものをぬう場合は記憶キーを押してくだ さい。長さの記憶が取り消され、上記方法で異なる長 さのものをぬうことができます。

とりけしキーを押すと、模様 d (モード 1) のぬい 実行画面にかわりますのでご注意ください。

ぬい始めの位置

<u>ک</u>

返しぬいボタン

(† ()

<u>h</u>



高さの調節値



【形の整え方】

つくろいぬい(ダーニング)のぬい始め(左側)とぬい 終わり(右側)の高さがそろわないときは、ぬい目のあ らさ調節キーを押して調節します。

「d1」~「d9」の範囲で調節できます。 (「d5」はオート値)

- 左側が低い場合「-」を押します。…「d1」~「d4」
- 右側が低い場合[+]を押します。…[d6]~[d9]









- ※ 模様 33 は、模様が完成するとほつれ止めの止めぬい を行って自動的にミシンが停止します。(ミシン停止 時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の 位置で停止します。)
- ① ぬい始めの上糸を横に引き出しておきます。
- ② ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげます。
- ③ ミシンをスタートさせ、自動的に停止するまでぬいま す。
- ※ ぬい目の内側は、ポンチ(市販品)などで穴を開けます。 ポンチの穴の大きさは、直径 0.25 cm 以下のものを ご使用ください。







【形の整え方】

布などによってアイレットの形がくずれる場合は、ぬい目 のあらさ調節キーを押して調節します。

- 「L1」と「L3」で調節できます。(「L2」はオート値)
 - ぬい目にすきまがある場合は、「-」を押して「L1」 にします。
 - ぬい目が重なる場合は、「+」を押して「L3」にします。

●パッチワーク・キルト ★パッチワーク(1)…ピーシング





パッチワーク布(ピース)を中表に合わせ、0.65 cm (1/4 インチ)のぬいしろを正確にぬうことができます。



針板角度目盛りの使い方

パッチワーク布(ピース)の角度と同じ角度目盛りに布端を合わせると、しるしなしでぬいしろ 0.65 cm(1/4 インチ)のぬい始めの位置を決めることができます。

【例】レモンスター

① パッチワーク押さえをセットし、模様 🖧 を選びます。

05

- ② ピースの対角線に折り目を付けます。
- ③ ぬい始めは、布端をパッチワーク押さえのガイドおよ び角度目盛り「45」度の線に合わせて布を置きます。
- ※ パッチワーク押さえを使わず基本押さえなどを使用する場合は、模様 (p) (中針位置の直線)を選び、布端 05

を針板のガイドライン 0.65 cm(1/4 インチ)およ び角度目盛り「45」度の線に合わせて布を置きます。

④ ぬい終わりは対角線までぬいます。

★パッチワーク(2)…飾りぬい



★キルティング(1)…スティップリングステッチ





表布と裏布のあいだに綿を入れ、表に模様をうめていき ます。

★キルティング(2)…とじぬい





厚みのあるキルト綿をとじるときに使用します。

- ① 模様を 1 つだけぬうために、模様 * を選んで、記 憶キーを押します。
- ② 止めぬい模様 [●]₁₅ ⁸⁹ (モード2)を選んで、記憶キーを 押します。
- ③ ミシンをスタートさせると、模様を1つだけぬった あと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシン が停止します。
- ※ 模様を 1 つだけぬう方法は、「◎記憶ぬい/●止めぬ い模様の使い方」(70ページ)をごらんください。

★ P:刺しゅう押さえの取り付け方







- ① 電源スイッチを切り、押さえホルダーを取り外します。
 「◎操作方法/●押さえホルダーの外し方、付け方」
 (16ページ)をごらんください。
- ② P:刺しゅう押さえのみぞを、うしろ側から押さえホ ルダー止めねじに合わせます。
- ③ 押さえホルダー止めねじをドライバーでしっかりしめ、P:刺しゅう押さえを押さえ棒に取り付けます。
- ※ 押さえを取り外すときは、電源スイッチを切り、針と 押さえ上げをあげます。押さえホルダー止めねじをド ライバーでゆるめ、P:刺しゅう押さえを取り外します。

★ P-2:フリーキルト押さえの取り付け方



⚠ 注意

- ・押さえの取り外し、取り付けは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。
 ・押さえを取り付けたあとは、必ず針が押さえにあたらない事を確認してください。けがの原因になります。
- ① 電源スイッチを切り、押さえホルダーを取り外します。
 「◎操作方法/●押さえホルダーの外し方、付け方」
 (16ページ)をごらんください。
- ② 針と押さえ上げがあがっている状態で、P-2:フリー キルト押さえのピンを針止めの上にのせ、押さえのみ ぞをうしろ側から押さえホルダー止めねじに合わせます。
- ③ 押さえホルダー止めねじをドライバーでしっかりしめ、
 P-2:フリーキルト押さえを押さえ棒に取り付けます。
- ※ 押さえを取り外すときは、電源スイッチ切り、針と押 さえ上げをあげます。押さえホルダー止めねじをドラ イバーでゆるめ、P-2:フリーキルト押さえを取り外 します。

★ P:刺しゅう押さえのぬい





●アップリケ





【例】模様 📲

アップリケ布をのり付けするか、しつけで止めます。 模様の針位置が右のときに、アップリケ布の縁の外側に ささるようにぬいます。

カーブのところや方向転換するところでは、アップリケ 布の外側に針がささった位置でミシンを停止し、針をさ したまま押さえ上げをあげて方向をかえるときれいに仕 上がります。









のぬい目のイラストの右に書かれている「M」 ※ 模様 01 は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置です。 「●アップリケ」(62ページ)をごらんください。





23



② 織り糸を抜いた左側をぬいます。

- ③ 反転キーを押して模様を左右反転にし、右側をぬいま す。
- ※ 左右反転の方法は、「◎記憶ぬい/●反転キーの使い 方」(72ページ)をごらんください。

④ ドロンワークする部分の織り糸を全部抜きとります。

※ 模様 [●]のぬい目のイラストの右に書かれている「M」 は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置です。

「●アップリケ」(62ページ)をごらんください。

●スモッキング

(3)



上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約10 cm ほど 引き出しておきます。

- ※ 下糸を針板の上に引き出す方法は、「●下糸を針板の 上に引き出す場合」(24ページ)をごらんください。
- 糸調子を「1」にし、ぬい目のあらさ「3.0」~「5.0」の直線を1 cm 間かくで数本平行にぬいます。
- ② 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

③ 糸調子を「オート」の位置にもどし、模様 ※ を選ん で、直線ぬいと直線ぬいのあいだにぬいます。 模様をぬったあと直線ぬいの糸を抜き取ります。







③ あて紙を取ります。

●スカラップ

表



あて紙

表



布の表から布端を1 cm くらい残してぬいます。 糸を切らないように外側の布を切り落とします。

●フレンチノットステッチ



飾り模様として利用します。

直線部分は、つなぎ模様を使うと間かくをあけることが できます。

「●つなぎ模様の使い方」(74 ページ)をごらんください。 ※ 糸調子ダイヤルは強めにしてぬってください。

●クロスステッチ



刺しゅうによく使われるクロスステッチができます。

図案の中を一定の方向にそろえてぬいます。







模様 30 31 32 33 34 35 36 37 38

様です。

ぬい目のあらさ調節キーであらさを小さくすると、ぬい 目がつまって布を送らなくなることがありますので、必 ず試しぬいをして確認をしてください。

※ 布が縮む場合は、裏に芯地を貼ってください。

<u> (</u>注意

針を交換するときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。





付属の2本針を使用して2本針ぬいを行うと、きれいな 飾りぬいができます。

2本針ぬいができる模様は左図の模様です。

- ※ 2本針は、付属の2本針をご使用ください。
 2本針の交換方法は、「◎操作方法/●針の取りかえ方」(17ページ)をごらんください。
- ※2本針ぬいは、試しぬいをして確認してください。

【上糸のかけ方】

- ※ 2 本針ぬいを行うときは、補助糸立て棒を使います。 補助糸立て棒の取り付け方法は、「◎ぬう前の準備/
 - ●下糸の準備/★補助糸立て棒の使い方」(19ページ)をごらんください。
- ※ 糸は、60 番および 60 番より細い糸を使用してくだ さい。

2つの糸こまから引き出した2本の糸は、途中でよじれないように①~⑦の手順で正しくかけてください。

- ①~④
 糸のかけ方は、針が1本のときの通常の上糸かけの
 手順①~④と同じです。
 「◎ぬう前の準備/●上糸の準備/★上糸かけ」
 (22ページ)をごらんください。
- ⑤ A の糸は、アーム糸案内に右からかけます。 B の糸は、アーム糸案内の穴に通します。
- ⑥ A の糸は、針棒糸かけに右からかけます。
 B の糸は、針棒糸かけにはかけません。
- ⑦2本針に左右に分けて糸を通します。
- ※ 2 本針は糸通しが使えません。針穴に糸を通すときは、 手で針の手前から向こう側に通してください。



【ぬい方】

- 様様を選び、2本針キーを押します。
 画面に2本針表示が点灯し、2本針ぬい設定状態に
 なります。
- ※ ぬい目の幅が最大 3.0 mm に制限されます。(直線状 模様の場合は、針位置が 2.0 ~ 5.0 の範囲に制限さ れます。)
 2本針ぬいを行うときは、安全のために、必ず 2本 針キーを押して 2本針ぬい設定状態にしてください。
- ② ぬう模様に適した押さえに交換します。
- ※ 2 本針ぬいに使用する押さえは、A:基本押さえまた はF:サテン押さえです。
- ③ 上糸を、A:基本押さえを使用している場合は押さえの下から向こう側に、F:サテン押さえを使用している場合は押さえの下から横に引き出し、押さえ上げをさげてぬい始めます。
- ※ ぬい方向をかえるときは、針をあげてから布の方向を かえてください。
- ④ 2本針ぬいが終了したら通常の針に交換します。
- ※ 2 本針を取り付けた状態で通常のぬいを行うと、針が 押さえや針板にあたる場合があります。
- ※ 2本針ぬい設定状態は、電源スイッチを一度切り、再度電源スイッチを入れると解除されます。
 2本針ぬい設定状態のときに2本針キーを押すと、 針の交換をうながす注意画面(左図)が表示されます。
 注意画面が表示されているあいだは、2本針キーを除くすべてのボタンやキーの操作を受け付けません。
 2本針キーをもう一度押すと、2本針ぬい設定状態が解除され、通常の画面になります。

2本針ぬいの注意事項

 2本針ぬいができない模様が選ばれているときは、2本針キー を押しても2本針ぬい設定状態になりません。このとき、ブザ ー音(禁止音)が鳴り、2本針表示が数秒間点滅します。 また、2本針ぬい設定状態になっているときは、2本針ぬいが できない模様を選ぼうとしてもその模様を選ぶことができませ ん。このときも上記同様、ブザー音(禁止音)が鳴り、2本針 表示が数秒間点滅します。



- 2本針ぬい設定状態のときは、記憶ぬいはできません。
- ・ ぬい終わりの上糸と下糸はミシンの面板に付いている糸切りで切ってください。(糸切りボタンを使用しないでください。)
 面板の糸切りの使い方は、「●直線(直線状模様)ぬい/★直線ぬい(中針位置)/(面板の糸切りの使い方)欄」(29ページ)をごらんください。

◎記憶ぬい

記憶キーを使うと異なる模様(文字を含む)を組み合わせて一度でぬうことができます。

- 02 03 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33
- ※ 模様(文字を含む)は合計 50 個まで記憶できます。
- ※記憶ぬいは、組み合せ記憶した模様の内容の確認、模様の追加や削除、模様のぬい目の幅やあらさの設定値の 変更などの編集ができます。編集は、模様を記憶している途中やすべて記憶したあと、およびぬったあとのい つでもできます。「◎編集機能」(80ページ)をごらんください。
- ※ 模様を組み合わせてぬうときは、必ず試しぬいをして糸調子を確認してください。 上糸と下糸のバランスがとれていない場合は糸調子ダイヤルで調節してください。糸調子の調節方法は、 「◎操作方法/●糸調子ダイヤル」(14ページ)をごらんください。

●組み合わせ記憶









【例】模様) (モード2)を組み合わせる

① モード2の模様番号34を選びます。

- ② 記憶キーを押します。
 模様 が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- ※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされていないが、カーソル表示の前に記憶されている模様があることを示します。
- モード2の模様番号 35 を選びます。
 カーソルの上に選んだ模様が表示されます。
- ④ 記憶キーを押します。
 模様
 が記憶され、模様表示が左へ移動して画面か
 5
 5
 5
 5
 5
 5
 7
 5
 7
 7
 8
 7
 8
 7
 7
 8
 7
 7
 8
 7
 8
 7
 8
 7
 7
 8
 7
 7
 8
 7
 8
 7
 8
 7
 8
 7
 8
 7
 8
 7
 8
 7
 8
 7
 8
 8
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9
 9</li
- ⑤ ミシンをスタートさせると、組み合わせ記憶した2 個の模様をくり返しぬいます。
- ※ ぬい終わりの模様の途中で止めぬいボタンを押すと、 その模様を完成させたあとほつれ止めの止めぬいを行 って自動的にミシンが停止します。 止めぬいボタンの使い方は、「◎操作方法/●操作ボ タン/【止めぬいボタン】」(8ページ)をごらんくだ さい。

●止めぬい模様の使い方

模様を1つだけまたは複数組み合わせて記憶し、そのあ とに止めぬい模様 (ミ) (モード2)を記憶すると、模様を 1つだけまたは組み合わせた模様の数だけをぬったあと、 ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンを停止す ることができます。

【例】模様 🍹 (モード2)を1つだけぬう

① モード2の模様番号 32を選びます。

- ※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされてい ないが、カーソル表示の前に記憶されている模様があ ることを示します。
- ③ モード2の模様番号89(止めぬい模様)を選びます。 カーソルの上に選んだ模様が表示されます。
- ④ 記憶キーを押します。
 止めぬい模様 ⁽⁾/₁₅ が記憶され、このあとは他の模様を
 記憶することができません。
- ⑤ ミシンをスタートさせると、模様を1つだけぬった あと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシン が停止します。
- ※ 模様のぬい始めには止めぬいが入っています。
- ※同じ模様を複数ぬったあとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンを停止する場合は、模様を選んだあとぬいたい数だけ記憶キーを押し、そのあと止めぬい模様 (モード2)を記憶します。









止めぬい
●糸切り記憶の方法

模様を記憶した最後に糸切り記憶キーを押して糸切りを 記憶すると、模様を1つだけまたは組み合わせた模様の 数だけをぬったあと、ほつれ止めの止めぬいを行って自 動的にミシンを停止し、自動的に上糸と下糸の糸切りを 行うことができます。

- ※記憶した模様の最後に止めぬい模様 ⁽²⁾ 選ぶ必要はありません。
- ※ 30 番および 30 番より太い糸や特殊な糸でぬう場合 は、糸切り記憶キーは使用しないでください。(ミシ ンの面板に付いている糸切りを使用してください。)

【例】模様) (モード2) と糸切りの組み 合わせ

- 69ページの手順①~④の操作を行い、模様
 5
 62つ記憶します
- ② 糸切り記憶キーを押して、画面に糸切り表示を点灯させます。
- ③ ミシンをスタートさせると、組み合わせ記憶した模様
 2 個をぬったあとほつれ止めの止めぬいを行って自動
 的にミシンが停止し、自動的に上糸と下糸を切ります。

	その他の糸切り記憶
糸切り表示(点灯)	ミシン停止中またはぬっている途中で糸切り記憶キーを押して、画面に糸切り 表示を点灯させると糸切り記憶ができます。
<u> </u>	糸切り記憶をすると、ぬい終わりにほつれ止めの止めぬいが入っているモード 1 の左図の模様、およびモード3~5のすべての文字と記号は、ぬい終わって ミシンが停止すると同時に自動的に糸切りが行われます。
〔ぬい終わりに止めぬいが入って いるモード 1 の模様〕	その他の模様も、スタート / ストップボタンを使わないで、止めぬいボタンま たは返しぬいボタンでぬい終わりに止めぬいを入れてミシンを停止した場合、 ミシンが停止すると同時に自動的に糸切りが行われます。
24 25 26 27 28 29 30 31 32 33	※ 糸切り記憶を取り消す場合は、糸切り記憶キーを押して、画面の糸切り表示 を消してください。

(2個の模様を記憶した直後の画面)
 (2個の模様を記憶した直後の画面)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 (1)
 <

(2)

(3)



MMMMMM Law



●反転キーの使い方



反転キーを使うと、選んだ模様の形を左右反転した形で ぬうことができます。

通常のぬいおよび記憶ぬいどちらでも使用できます。

- ※ モード 1 の模様 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 ード 3 ~ 5 の文字、およびその他の模様の一部は、反転できません。
- 【例】 模様 ³₄と模様 ³₄の反転模様(モード2)を 交互にぬう(記憶ぬいの例)
- ① モード2の模様番号34を選びます。
- ② 記憶キーを押します。
 模様 が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- ※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされてい ないが、カーソル表示の前に記憶されている模様があ ることを示します。
- モード2の模様番号 34 を選びます。
 カーソルの上に選んだ模様が表示されます。
- ④ 反転キーを押します。
 反転マークが表示されます。
- ※ 反転マークが表示されている場合は、その模様が左右 反転した形でぬわれることを示します。
- ⑤ 記憶キーを押します。
 模様 の反転模様が記憶され、模様表示が左へ移動 ³⁴ して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が 点滅します。
- ⑥ ミシンをスタートさせると、反転模様を含む組み合わせ記憶した模様をくり返しぬいます。

●もようの頭出しキーの使い方



もようの頭出しキーを使うと、ぬいを途中で止めた場合、 模様の始めからぬうことができます。 複数の模様が組み合わされている場合、どの模様の始め からでもぬうことができます。

通常のぬいおよび記憶ぬいどちらでも使用できます。

※ ぬう前でも、組み合せ記憶した模様の中のお好みの模 様からぬい始めることができます。

【通常ぬいの場合】

- ① 模様(1つの模様を連続してぬう例) 🔋 (モード2)
- ② ミシンを停止した位置
- ③ もようの頭出しキーを押します。
- ④ ミシンをスタートさせると、模様の始めからぬいます。

【組み合わせ記憶ぬいの場合】

- 組み合わせ記憶模様(3個の模様を組み合わせた例)
 32 34 35 (モード2)
- ② ミシンを停止した位置(3番目の模様の途中)
 画面の模様番号の数字が記憶模様の順番を示す数字にかわっています。
- ③ もようの頭出しキーを押します。
 - 1回押すと、停止したときの模様(3番目)の先 頭からぬい始めることができます。
 (画面は変化しません。)
 - もう1回押すと、その手前の模様(2番目)の先 頭からぬい始めることができます。(記憶模様の順 番を示す数字が2番目になっています。)
- ※ もようの頭出しキーを押すごとに記憶模様の順番を示 す数字が減っていきます。1番目の模様の次は最後の 模様にもどり、くり返します。
- ※ もようの頭出しキーを長押しすると、1回の動作で1 番目の模様になりなります。
- ④ ミシンをスタートさせると、もようの頭出しキーで表示させた模様の先頭からぬい始めます。(2番目の模様に合わせた例)

つなぎ模様の使い方

ぬい目のイラストの右側の数字「1」「2」は、つなぎ模様を1つ記憶したときのぬい目の数を示します。

- ・ 模様 55 56 58 は、針位置やぬい目のあらさのオート値(電源を入れたとき、ミシンに自動的に設定されている値) が設定されていて、そのオート値はぬい目の幅調節キーとぬい目のあらさ調節キーでかえることができます。
- ・ 模様

 ・ 模様

 ・ 技様
 ・ す
 ・ 59

 は、針位置やぬい目のあらさのオート値が設定されていないで、その値はつなぎ模様の1つ前に
 記憶されている模様と同じ値になり、ぬい目の幅調節キーとぬい目のあらさ調節キーでかえることはできませ
 ん。(針位置は、前の模様のぬい終わりの針位置になります。)



【例】模様^{*}(モード2)のあいだに模様² (モード2)を組み合わせて、間かくをあ ける

① モード2の模様番号 08 を選びます。

- ② 記憶キーを押します。
 模様
 が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- ※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされていないが、カーソル表示の前に記憶されている模様があることを示します。
- ③ モード2の模様番号 57 を選びます。 カーソルの上に選んだ模様が表示されます。
- ④ 記憶キーを押します。
 模様
 グ
 が記憶され、模様表示が左へ移動して画面から消え、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- ⑤ ミシンをスタートさせると、模様 ♥ の間かくがあい た状態でくり返しぬいます。 [∞]
- ※ 模様と模様のあいだに、中針位置の直線のぬい目が 2 つ入っています。

ぬい目のあらさが細かい模様につなぎ模様を使う場合



例えば、模様 (モード2)のように、ぬい目のあら さが細かい模様の次につなぎ模様 2000 を使うと、つ なぎ模様のぬい目のあらさは 1 つ前の模様のぬい目の あらさと同じになるため、つなぎ模様のぬい目のあら さも細かくなって、次の模様とほとんど間かくがあき ません。

●スペース模様の使い方



模様と模様の間かくをあける模様は、スペース模様 (モード2)があります。

スペース模様を1つ記憶すると模様と模様の間かくを最 大約5mm(オート値)あけることができます。

※ ぬい目のあらさ調節キーで、間かくを 5 mm より小 さくすることができます。

◎文字ぬい

- モード3~5の文字グループは、通常の模様と同じように複数の文字(記号を含む)および模様を組み合わせてぬうことができます。
 文字の選び方、組み合わせ記憶の方法も通常の模様と同じです。
- 文字を1つだけまたは複数の文字を組み合わせてぬった場合、最後の文字をぬって自動的にミシンは停止します。(ミシン停止時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の位置で停止します。)
 ぬわれた文字のぬい始めとぬい終わりには、ほつれ止めの止めぬいが入っています。
- 文字と模様を組み合わせてぬった場合、組み合わせ記憶した模様の最後が文字の場合は、最後の文字をぬって 自動的にミシンは停止します。
 組み合わせ記憶した模様の最後が文字以外の模様の場合は、組み合わせ記憶した模様をくり返しぬいます。

●文字の種類





モード3は、ブロック体の文字(英字大文字·英字小文字・ 数字・記号)を選ぶことができます。

モード4は、丸ゴシック体の文字(ひらがな [横書き〕) を選ぶことができます。



モード5は、丸ゴシック体の文字(カタカナ [横書き〕) を選ぶことができます。

文字ぬいの注意事項

- ・ 必ず同じ布地で試しぬいをしてください。
- ・ 針は、付属のブルー針(柄の部分が青色の針)を使用してください。
- ・ 伸びる布地、薄手の布地などをぬう場合は、布の裏に市販品の芯地を貼るかまたはトレーシングペーパー や薄い紙を布の下に敷いてぬってください。
- 文字や記号を組み合わせた場合、隣り合う模様によっては間かくがせまくなったり、広くなることがあります。気になる場合はスペース模様で調節してください。(79ページの〔スペース模様〕欄参照)





【例】モード3「R & B」をぬう

① モード3の模様番号28を選びます。

- ② 記憶キーを押します。
 文字「R」が記憶され、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- ③ モード3の模様番号 64 を選びます。
 カーソルの上に選んだ文字「&」が表示されます。
- ④ 記憶キーを押します。
 文字「&」が記憶され、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- ⑤ モード3の模様番号 12 を選びます。 カーソルの上に選んだ文字「B」が表示されます。
- ⑥ 記憶キーを押します。
 文字「B」が記憶され、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- ※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされていないが、「&」の前に記憶されている模様があることを示します。
- ⑦ ミシンをスタートさせると、「R & B」をぬったあと 自動的にミシンは停止します。
- ※ 糸切り記憶の方法、もようの頭出しキーの使い方は通常の模様の場合と同じです。 「◎記憶ぬい」(71、73ページ)をごらんください。



[【]例】モード4「がっこう」をぬう

① モード4の模様番号59を選びます。

- ② 記憶キーを押します。
 文字「が」が記憶され、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- モード4の模様番号 52 を選びます。
 カーソルの上に選んだ文字「っ」が表示されます。
- ④ 記憶キーを押します。
 文字「っ」が記憶され、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- ※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされてい ないが、「っ」の前に記憶されている模様があること を示します。
- モード4の模様番号10を選びます。
 カーソルの上に選んだ文字「こ」が表示されます。
- ⑥ 記憶キーを押します。
 文字「こ」が記憶され、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- ⑦ モード4の模様番号03を選びます。
 カーソルの上に選んだ文字「う」が表示されます。
- ⑧ 記憶キーを押します。
 文字「う」が記憶され、次の模様の位置にカーソル表示が点滅します。
- ③ ミシンをスタートさせると、「がっこう」をぬったあ と自動的にミシンは停止します。
- ※ 糸切り記憶の方法、もようの頭出しキーの使い方は通常の模様の場合と同じです。 「◎記憶ぬい」(71、73ページ)をごらんください。





◎編集機能

(1)

2

記憶ぬいは、組み合せ記憶した模様の内容の確認、模様の追加や削除、模様のぬい目の幅やあらさの設定値の変 更などの編集ができます。

編集は、模様を記憶している途中やすべて記憶したあと、およびぬったあとのいつでもできます。

※編集機能は画面のカーソルが点滅しているときにできます。ぬったあとはカーソルが点灯状態になっていますので、一度編集キーの「 (▲ 編集 」または「 編集 ▶ 」のどちらかを押して、カーソルを点滅状態にしてください。

●記憶内容の確認

F

編集キーでカーソルを左や右へ移動させることで、画面 に表示されていない記憶した模様を表示させ、内容を確 認することができます。

※ 編集キー「 ◀ 編集 」はカーソルを左に移動させ、 「 編集 ▶ 」はカーソルを右に移動させることがで きます。

【例】模様 くく (モード2)を記憶した 30 31 32 33 ときのすべての模様を画面上で確認する

- モード2の模様番号 30~33 までを順番に4 個記 憶した直後の画面。
- ※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされてい ないが、カーソル表示の前に記憶されている模様があ ることを示します。
- ② 編集キー「 ◀ 編集 」を 1 回押します。
- ※ 画面に表示されている数値「O4」は、カーソルが付 いている模様が記憶されている模様の何番目か(記憶 模様の順番)を示します。
- ※ 画面に表示されているぬい目の幅とあらさの値は、カ ーソルが付いている模様の値です。
- ※ 画面の「◀」マークは、画面に模様の表示はされていないが、カーソルが付いている模様の前に記憶されている模様があることを示します。
- ③ 編集キー「
 ④ 回押すごとに記憶されている1つ前の模様にカー ソルが移動し、3回目で先頭の模様に移動します。
 記憶模様の順番は1番目が表示され、これで記憶したすべての模様が確認できたことになります。
- ※ 画面の「▶」マークは、画面に模様の表示はされてい ないが、カーソルが付いている模様のうしろに記憶さ れている模様があることを示します。





●記憶内容の修正(模様の削除と挿入)



編集キーでカーソルを合わせた模様のところでとりけし キーを押すと、その模様を削除することができます。 カーソルを合わせた模様のところで新しく選んだ模様を 記憶すると、その模様の前に新しい模様を挿入すること ができます。

【例】記憶されている文字「ABC」から「B」 を削除し、そこに「W」を挿入して「AWC」 にする

- 文字「ABC」(モード3の模様番号11、12、13)を 記憶した直後の画面。
- ② 編集キー「 (4) 編集」で、削除する文字「B」にカ ーソルを合わせます。
- ③ とりけしキーを押します。
 文字「B」が削除され、カーソルは文字「C」のところに移動します。
- ※ とりけしキーをブザーが「ピッ」と鳴るまで長押しすると、記憶したすべての模様を一度に削除できます。
- ④ モード3の模様番号33を選びます。
 文字「W」がカーソルの付いていた「C」の前に表示 されます。
- 記憶キーを押します。
 文字「W」が「C」の前に挿入され、「AWC」が組み
 合わせ記憶されました。

81

<u>模様のコピー</u>

カーソルを合わせた模様のところで記憶キーを押すと、 その模様の手前に同じ模様をコピーして挿入すること ができます。

- 【例】「AWC」の「W」をコピーして「AWWC」 にする
- 1 編集キーで、コピーする文字「W」にカーソルを 合わせます。
- ② 記憶キーを押します。
 文字「W」がコピー(記憶)され、「W」が2個組
 み合わされました。(「AWWC」)

●ぬい目の幅とあらさの調節方法

★統一マニュアル方式



記憶された複数の模様全体を 1 つの模様として、ぬい目 の幅、ぬい目のあらさを一括調節する方法です。すべて の模様が、同じ幅とあらさでぬわれます。

記憶した模様の外側(右側)にカーソルの表示があると きに模様全体の統一マニュアル値の設定ができます。

※ 模様の組み合わせによっては、ぬい目の幅やあらさが 一括して調節できない場合もあります。

- 【例】模様 ^{い な} と ^{い な} (左右反転)(モード2)を 組み合わせた全体のぬい目の幅を一括し て調節する
- ① モード2の模様 ⁶⁵
 と模様 た直後の画面。
 ⁶¹
 と模様 ⁶⁵
 (左右反転)を記憶し
- ② カーソルの上側に模様の表示がない状態で、ぬい目の 幅調節キー(またはぬい目のあらさ調節キー)を押し て統一マニュアル値を設定します。
- ※記憶キーを押して記憶した直後は、カーソルは模様の 外側にあります。
- ③ ミシンをスタートさせると、記憶したすべての模様を 設定したぬい目の幅(あらさ)でぬいます。

ぬい目の幅をかえたときの基準針位置が異なる模様を組み合わせ記憶し、ぬい目の幅を小さくして統一 マニュアル値を設定した場合、その組み合わせ模様をぬったときの基準針位置は下記のように統一され ます。



記憶された個々の模様について、ぬい目の幅、ぬい目の あらさを調節する方法です。

調節したい模様の下にカーソルの表示があるときに、その模様の個別マニュアル値の設定ができます。

【例】同じ模様を2個記憶し、2番目の模様の ぬい目の幅を変更する

 ・
 (モード2)を2個記憶した直後の画面。
 ³²

- 2 編集キーを「
 4 編集 」押して、変更する模様(2 番目)にカーソルを合わせます。
- ※記憶模様の順番は、画面の数値で確認してください。
- ③ ぬい目の幅調節キー(またはぬい目のあらさ調節キー) を押して、2番目の模様の個別マニュアル値を設定し ます。
- ④ ミシンをスタートさせると、ぬい目の幅が1番目の 模様は7.0mm(オート値)、2番目の模様は
 3.5mm(設定値)の2つの模様を交互にぬいます。







◎ミシンの設定



設定モードにより、ミシンを初期の状態(購入時の設定 状態)から下記5項目の変更をすることができます。

【設定モードの入り方】

- 記憶キーを押したまま、電源スイッチを入れます。
 1番目の設定画面が表示されます。
- ※ 記憶キーは1番目の設定画面が表示されるまで押し
 続けてください。画面が表示されたら指をはなします。
 1番目の設定画面が表示されなかった場合、もう一度
 電源スイッチを切ってやり直してください。

【設定モードの切りかえ】

② モードキーを押すと、設定項目を順番に切りかえる ことができます。

設定できる項目は下記の5項目です。

- (1) ブザー音の設定
- (2) ミシン停止時の針位置設定
- (3) ゆっくりスタートの速度設定
- (4) ミシンの設定のオールクリアー
- (5) キー位置の設定

③ 設定を終了する場合は、記憶キーを押します。 変更内容が設定されて通常の画面にもどります。

続けて別の項目を設定する場合は、モードキーを押し ます。



【ブザー音の設定】

ボタンやキーを押したときなどに鳴るブザーを「ブザー 音あり|か「ブザー音なし|に設定できます。 初期の状態(購入時の設定状態)は「ブザー音あり」です。

- ※「ブザー音なし」に設定しても、禁止・警告等を知ら せるブザーは鳴ります。
- 設定モードにして1番目の設定画面を表示させます。
- ②「ブザー音なし」に設定する場合は、編集キー 「 編集 ▶ 」を押して「oF」を点滅させます。 「ブザー音あり」に設定する場合は、編集キー 「 (編集 」を押して「on」を点滅させます。
- ③記憶キーを押すと、設定されます。 変更内容が設定されて通常の画面にもどります。
- ※ 続けて別の項目を設定する場合は、モードキーを押 します。



【ミシン停止時の針位置設定】

ミシンを停止したときの針の位置を「下位置停止」(布に ささった位置)か「上位置停止」に設定できます。 初期の状態(購入時の設定状態)は「下位置停止」です。

- ① 設定モードにして1番目の設定画面を表示させ、モ ードキーを1回押して2番目の設定画面を表示させ ます。
- ②「上位置停止」に設定する場合は、編集キー 「 【 【 🌉 」を押して「UP」を点滅させます。

「下位置停止」に設定する場合は、編集キー 「編集 ▶ 」を押して「dn」を点滅させます。

- ③ 記憶キーを押すと、設定されます。 変更内容が設定されて通常の画面にもどります。
- ※ 続けて別の項目を設定する場合は、モードキーを押し ます。

編集





スタート / ストップボタンまたはフットコントローラー でミシンをスタートさせたとき、ゆっくり動きはじめて からスピードコントロールつまみでセットした速さにな りますが(ゆっくりスタート機能)、その動き始めの速度 を「おそい」「標準」「速め」の3段階で設定できます。 初期の状態(購入時の設定状態)は「2(標準)」です。

- ① 設定モードにして 1 番目の設定画面を表示させ、モー ドキーを2回押して3番目の設定画面を表示させます。
- ②「おそい」に設定する場合は、編集キー 「 【 ▲ 編集 」を押して「1」を点滅させます。
 - 「速め」に設定する場合は、編集キー 「編集 ▶ 」を押して「3」を点滅させます。
- ③記憶キーを押すと、設定されます。 変更内容が設定されて通常の画面にもどります。
- ※ 続けて別の項目を設定する場合は、モードキーを押し ます。

【ミシンの設定のオールクリアー】

設定画面で変更したミシンの設定項目(下記3項目)を 一括して初期の状態(購入時の設定状態)にもどすこと ができます。

- (1) ブザー音の設定
- (2) ミシン停止時の針位置設定
- (3) ゆっくりスタートの速度設定
- ① 設定モードにして] 番目の設定画面を表示させ、モー ドキーを3回押して4番目の設定画面を表示させます。
- ② とりけしキーをブザーが「ピッ」と鳴るまで長押しし ます。 上記3項目の設定が一括して初期の状態(購入時の設 定状態)にもどります。
- ③ 記憶キーを押すと、設定されます。 変更内容が設定されて通常の画面にもどります。
- ※ 続けて別の項目を設定する場合は、モードキーを押し ます。







【キー位置の設定】

操作パネルの外観上のキーの位置と実際のキーの位置が少しずれていて、キーがうまく押せない場合に調整できます。

※ 調整は、付属のシームリッパーを使用してください。

- 設定モードにして1番目の設定画面を表示させ、モー ドキーを4回押して5番目の設定画面を表示させます。
- ② スタート / ストップボタンを押して、キー位置の調整 画面にします。
- ③ 画面に「t1」が表示されています。
 操作パネルの「模様ダイレクト選択キー」の模様
 「」」の左下を押します。(下図を参照)
- ④ 画面は、「t2」の表示にかわります。
 操作パネルの「テンキー」「
 8 」の中央を押します。
 (下図を参照)
- ⑤ 画面は、「t3」の表示にかわります。
 操作パネルの「テンキー」「3」の中央を押します。
 (下図を参照)
- ⑥ 画面は、「t4」の表示にかわります。 操作パネルの「ぬい目のあらさ調節キー」の「 の右上を押します。(下図を参照)
- ⑦ 記憶キーを押します。キー位置の調整が完了し、通常の画面にもどります。



◎ミシンのお手入れ

●かまと送り歯、糸切り部の掃除





 注意
 ・お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源 プラグをコンセントから抜いてください。
 ・説明されている場所以外は、分解しないでください。 感電・火災・けがの原因になります。

【内がまの取り外しと掃除】

- ② ねじ(2個)を外し、針板を外します。
- ③ 内がまの手前を上に引きながら外します。
- ④ 内がまを付属のミシンブラシで掃除し、やわらかい布 で軽くふきます。
- ⑤ 送り歯、糸切り部のごみをミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
- ⑥ 外がまの中央部をやわらかい布で軽くふきます。
- ※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、 掃除機などで吸いとってください。

<u>お願い</u>

- ミシンの使用頻度が高い場合、上記お手入れでは 取りのぞけない部分に糸くずやほこりがたまり、 ぬい不良の原因になります。ミシンの使用頻度が 高い場合は、定期的にミシン内部の掃除をするこ とをおすすめします。お買い上げの販売店にご相 談ください。
- ミシンへの注油は出荷時に十分行っています。
 ご自身での注油は行わないでください。故障の原因となります。

【内がまの組み付け】

- 内がまを取り付けます。
 内がまの三角マークと回転止めの三角マークを合わせ、
 内がまの凸部が回転止めの左側にくるように取り付けます。
- ※内がまを取り付けたあと、はずみ車を手でゆっくり手前にまわし、外がまがスムーズにまわることを確認してください。
- ② ねじ(2個)で針板を取り付けます。
- ③ ボビン、角板、押さえホルダー、針を取り付けます。
- ※ お手入れが終わったら、ボビン、角板、押さえホルダー と針などを忘れずに取り付けてください。



3



② ミシンブラシ ()))

糸案内カバー

 (1) 天板を上に開け、糸案内カバーの右側を持ち上げて、 ミシンから外します。

- ② ミシンの糸の通り道を付属のミシンブラシなどで掃除します。
- ※ プリテンション板の先端を持ち上げて、内側も掃除し てください。

③糸案内カバー裏側のブラシを掃除します。



ブラシ

 ④ 糸案内カバーの取り付けは、先に左側を合わせ上部を 軽く押し込み(a)、次に右上側を押しつけ(b)、最 後に手前を押しつけて(c)、糸案内カバーをはめ込 みます。 ●ブザー音の種類

ブザー音	内容
ピッ	正しい操作をしたときの受け付け音です。
ピッピピー	ボタンホールなどのぬいが終わったときの終了音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

※ 正しい操作をしたときの受け付け音は鳴らなくすることができます。「◎ミシンの設定/【ブザー音の設定】」 (85 ページ)をごらんください。

●メッセージ画面が表示された場合

禁止音や警告音とともに下記メッセージ画面が表示されたかまたは表示されている場合は、対処方法にしたがってください。

メッセージ画面	対 処 方 法
• 0 ; ~ • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	 フットコントローラーを接続した状態でスタート/ストップボタンを押したときに、 フットコントローラー表示が数秒間点滅します。ミシンは動きません。 ・スタート/ストップボタンを使用する場合は、フットコントローラーの接続を外してください。 フットコントローラーを使用中にフットコントローラーが故障すると、フットコントローラー表示が点滅します。ミシンは動きません。 ・フットコントローラーを外し、お買い上げの販売店へご連絡ください。
• 0 1 📰 1 - 3.5 2.4	押さえ上げをさげていない状態で、ミシンをスタートさせようとしたとき、または 返しぬいボタンまたは糸切りボタンを押したときに押さえ表示が数秒間点滅します。 安全のためにミシンは動きません。 ・ 押さえ上げをさげて、操作を行ってください。
8 -	 糸巻き軸が下糸巻き位置にセットされているあいだ糸巻き表示が点灯し、糸巻き以外の操作を行うと糸巻き表示が数秒間点滅します。糸巻き表示が点灯しているあいだスタート / ストップボタンまたはフットコントローラー以外のボタンやキーの操作は受け付けません。 他の操作を行う場合は、糸巻き軸をもとの位置(左側)にもどしてください。
■ <u>bl</u> = 5.0 0. 4	ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを少しぬうとミシンが停止 し、ボタンホール切りかえレバー表示が数秒間点滅し、同時に「bL」表示が点灯します。 ・ ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートさせてください。
• 13	模様の反転機能が使えない模様が選ばれているときに反転キーを押すと反転マーク が数秒間点滅します。

メッセージ画面	対 処 方 法
■ 13 중 INF ▲▲▲ 5.0 2.5	 2本針ぬいができない模様が選ばれているときに2本針キーを押すと2本針表示が数秒間点滅します。(2本針ぬい設定状態になっているときに2本針ぬいができない模様を選ぼうとしても、2本針表示が数秒間点滅します。) 2本針ぬいができる模様を選んでから2本針キーを押してください。
÷₩.	2本針ぬい設定状態のときに2本針キーを押すと、針の交換をうながす2本針表 示が点滅します。2本針表示が点滅しているあいだは、2本針キーを除くすべての ボタンやキーの操作を受け付けません。 ・2本針キーをもう一度押すと、通常の画面になります。
	安全装置の作動によりミシンが緊急停止したときに約 15 秒間表示 (点灯) されます。 表示されているあいだミシンは動きません。 ・電源スイッチを切り、糸がらみ等の原因がある場合は原因を取り除いてください。
Е1 ~ Е7 ЕЧ	 ミシンが正しく作動しなかった場合に表示されます。ミシンは動きません。 ・電源スイッチを切り、針板を外し、かまや送り歯、糸切り部に糸がからんでいないか確認してください。 ・直らない場合は電源スイッチを切り、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる	 1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。 6. ぬい始めに上糸を押さえで押さえていない。 7. 糸がかまなどにからまっている。 8. 糸こまに上糸が引っかかっている。 	22 ページ参照 14 ページ参照 17 ページ参照 17 ページ参照 17 ページ参照 28 ページ参照 88 ページ参照 糸こま押さえを付ける
下糸が切れる	 下糸の通し方がまちがっている。 内がまの中にごみがたまっている。 ボビンにきずがあり回転がなめらかでない。 下糸の巻き方がゆるい。 	21 ページ参照 88 ページ参照 ボビンを交換する 巻く速度を速くする
針が折れる	 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 針止めねじのしめつけがゆるんでいる。 布に対して針が細すぎる。 ぬい終わったとき布を手前に引いている。 模様に合った押さえを使用していない。 	17 ページ参照 17 ページ参照 17 ページ参照 布を向こう側に出す 指定の押さえに交換する
ぬい目がとぶ	 計の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 布に対して針と糸が合っていない。 ぬい目がとぶようなときに、付属のブルー針、パープル針を使っていない。 上糸のかけ方がまちがっている。 品質の悪い針を使用している。 	17 ページ参照 17 ページ参照 17 ページ参照 22 ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる	 1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸、下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. 布に対してぬい目があらすぎる。 5. 押さえ圧が合っていない。 	14 ページ参照 21、22 ページ参照 17 ページ参照 ぬい目を細かくする 12 ページ参照
ぬいずれがおこる	1.押さえ圧が合っていない。	12ページ参照
布送りがうまくいかない	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。	88 ページ参照 ぬい目をあらくする 13 ページ参照
ぬい目に輪ができる	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	14 ページ参照 17 ページ参照
ボタンホールが うまくぬえない	 布に対してぬい目のあらさが合っていない。 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 ボタンホール切りかえレバーがさがっていない。 	47 ページ参照 43 ページ参照 44、46 ページ参照
音が高い	 わまの部分に糸くずが巻きこまれている。 送り歯にごみがたまっている。 電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音がでる。 	88 ページ参照 88 ページ参照 異常ではありません
糸切りボタンで うまく糸が切れない		8 ページ参照 88 ページ参照

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
うすい布、伸縮性の 布が食い込む	1. 布に対して針と糸が合っていない。 2. 左針位置でぬっていない。	17 ページ参照 左針位置でぬう
上糸が抜ける	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸を押さえで押さえていない。	22 ページ参照 28 ページ参照
かまに糸がからまる	 1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. かまにキズがある。 3. 内がまの入れ方がまちがっている。 	22 ページ参照 かまの交換 88 ページ参照
	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. 天びんの糸穴に糸が入っていない。	22 ページ参照 22 ページ参照
糸通しができない	1. 針が上にあがっていない。 2. 糸が糸通しのみぞに入っていない。 3. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	23 ページ参照 23 ページ参照 17 ページ参照
糸通し後、糸通しレバー がいちばん上までもどら ない	1. すべりにくい糸を使っている。	糸通しレバーを、手で ゆっくり上までもどす
ぬい終わりに下糸が二重 に出てくる	1.針が上まであがっていない。	上下停針ボタンを押して 針をあげる
ぬい目に下糸がでる	 ボビンのセットがまちがっている。 糸こまのセットがまちがっている。 上糸のかけ方がまちがっている。 上糸調子が強すぎる。 ジャノメのボビンを使用していない。 	21 ページ参照 18 ページ参照 22 ページ参照 14 ページ参照 18 ページ参照
ぬい始めの糸がらみ	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸を押さえで押さえていない。	22 ページ参照 28 ページ参照
模様がきれいにぬえない	1. ボビンのセットがまちがっている。 (ボビンの入れる方向/下糸が内がまのばねに入っていない。)	21 ページ参照
ボビンにうまく下糸が 巻けない	1. スピードコントロールつまみを ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	9、19ページ参照 19、20ページ参照 調整ねじをまわす 注意:調整ねじのまわす範 囲は1回転までにし てください。 部品が外れます。

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
ミシンが動かない	 電源のつなぎ方がまちがっている。 かまに糸やごみがたまっている。 ボビンに糸がからまっている。 押さえ上げがさがっていない。 下糸巻きをした後、糸巻き軸が糸巻きの位置(右側)にある。 上糸が外れ、ボビンにからまって(ガチャガチャ音がする)いる。 	6 ページ参照 88 ページ参照 ボビンの糸を確認する 12 ページ参照 20 ページ参照 上糸かけを確認する [天びんの糸外れ確認]
	7. 上糸が天びんから外れ、他の部品にからまっている。	からまっている糸を取る
	 8. フットコントローラーを接続したままでスタート/ストップボタンを 	[からまっている糸の取り方] 手順1. 電源スイッチを切る 手順2. 面板をあける 手順3. からまっている糸を 取る 手順4. 上糸をかけ直す (22ページ参照) 手順5. 面板をしめる フットコントローラーを外す
	押している。	
	1.上糸のかけ方がまちがっている。	22 ページ参照
布裏で糸がからまる		[からまっている糸の取り方] 手順 1. 電源スイッチを切る 手順 2. 押さえ上げをあげ、 ハサミで布裏の糸を切る 手順 3. 針板を外す (88 ページ参照) 手順 4. ボビン、内がまを外し、 からまっている糸を取 る(88 ページ参照) 手順 5. 内がま、ボビンをセッ トし、針板を取り付ける (88 ページ参照) 手順 6. 上糸をかけ直す (22 ページ参照)
フットコントローラーを 踏んでも動かない	 フットコントローラーを踏んだ状態で電源スイッチを入れた。 画面表示にフットコントローラーの表示が出ないうちにフットコントローラーを踏んだ。 「」」、 「」」、	電源スイッチを入れてから フットコントローラーを踏む 表示が出てからフット コントローラーを踏む

- ※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生している もので、ぬい作業上はとくに問題はありません。
- ※ 長時間使うと操作ボタンや操作パネル付近の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬ い作業上はとくに問題はありません。
- ※ 外観の細い線のように見える部分は、樹脂を形成するときに発生するウェルドラインと呼ばれるものです。 場所によっては目立つ場合もありますが、強度上とくに問題はありません。

🐥 メモ 🐥

🐥 メモ 🐥

	仕 様
使用電圧	100 V 50/60 Hz
消費電力	35 W
外形寸法	幅 50.4 cm ×奥行 23.6 cm ×高さ 31.6 cm
質 量	10.0 kg(本体)
使用針	家庭用 HA X 1
最高ぬい速度	每分820針(直線模様)
	フットコントローラー使用時 毎分 820 針(直線模様)

仕様および外観は改良のため予 告なく変更することがあります のでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

● 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要 に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。 ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 - 1. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3. お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷 したとき。
 - 5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。 お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

株式会社ジャノメ

〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463 番地

 お客様相談室 TEL. 0120-026-557 (フリーダイヤル) 042-661-2600
 受付 平日 9:00~12:00 13:00~17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ https://www.janome.co.jp 問合せフォームをご利用ください。

JANOME

863800568④